

第266図 IV-a-斜類土器 (5)

面に斜位貝殻条痕文を施し、平坦に整形された口唇部にキザミを施す。このキザミが口縁部外面上部に被ることから、口縁部外面への貝殻条痕文施文後に施したと考えられる。内面は全体的に工具ナデをおこなう。

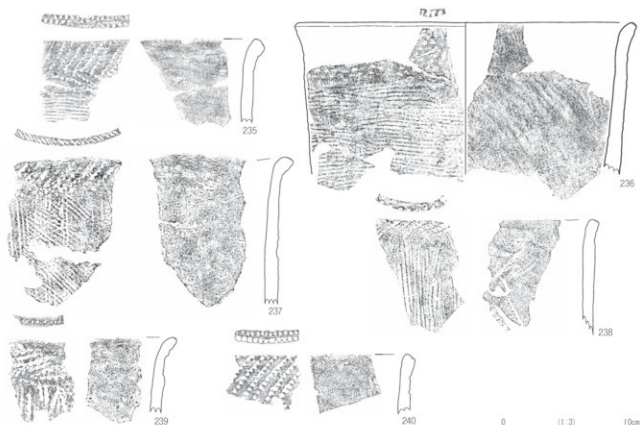
235・236は胴部に横位貝殻条痕文を施す。235はやや平坦に整形した口唇部内側に貝殻刺突文を施す。胴部の横位貝殻条痕文は浅い。236はやや斜位に貝殻条痕文を施す。内面は、ヘラ状工具痕が明確に残る。

237は胴部に斜位と縦位貝殻条痕文をに施す。

238は胴部に縦位貝殻条痕文を施す。口縁部外面の文様幅が1cm程度と短い。

239は小破片のため詳細は不明だが、口縁部の斜位貝殻刺突文の下位に2条を1単位とした縦位貝殻刺突文や、2つの斜位貝殻刺突文を組み合わせ「ハ」の字状に文様を施す。

240はやや平坦に整形された口唇部外面に貝殻刺突文、内面にキザミを施す。



第267図 N-a-斜類土器 (6)

N-a-横類 (第268図241～第271図275)

口縁部が外反し、口縁部外面に横位貝殻刺突文を施す一群で、口縁部文様の最上段に1条でも横位貝殻条痕文を施せば、この類に分類した。

241～260は口縁部が外反する一群である。

241～249は、口縁部外面に横位貝殻刺突文のみを数条施す。241は7～8条の横位貝殻刺突文を施す。242は6条の横位貝殻刺突文を施す。243は3条の横位貝殻刺突文を施す。横位貝殻刺突文は貝殻を3cmで1単位とし連続で施し、1条の貝殻刺突文とするためわずかに湾曲する。胴部外面の綾杉状の貝殻条痕文は荒く、口縁部内面直下の稜までがナデ、稜より下位はケズリをおこなう。244は拓本では確認しにくい、横位貝殻刺突文の下位に2ヶ所、斜位の短い貝殻刺突文を施す部分がある。そのうちの1つの斜位貝殻刺突文は施文原体が異なり、口縁部文様の貝殻よりもやや大型の貝殻で刺突文を施す。この刺突文は10cm程の間隔で2ヶ所に施すことから、意識的に施文したと考えられる。245は2条の横位貝殻刺突文を施し、その下位に斜位のごく短い貝殻刺突文を施す。胴部は非常に浅い貝殻条痕文を施す。247は9条の横位貝殻刺突文を施す。248は口縁部から底部までを覆える資料である。平坦に整形された口唇部はキザミを施す。口縁部外面は部分的にナデ消すが5条の横

位貝殻刺突文を施す。胴部下部は横位に貝殻条痕文を施し、底面外面端部はキザミを施す。このキザミと口唇部のキザミとは異なる施文原体である。内面は全体に工具ナデをおこなう。249は4～5条の横位貝殻刺突文を、胴部に綾杉状の貝殻条痕文を施す。胴部下部に横位貝殻条痕文を施す。内面はていねいなナデをおこなう。以上の土器(241～249)の胴部は、胴部文様を確認できるものは全て綾杉状の貝殻条痕文を施す。

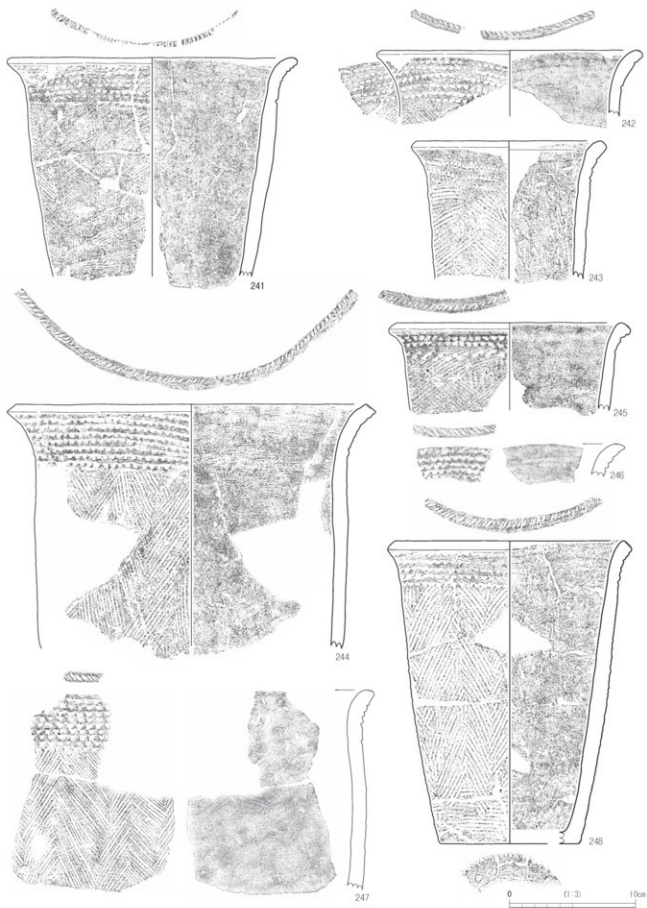
250は口縁部外面に1条のみ横位貝殻刺突文を施し、その下位に斜位貝殻刺突文を羽状に施す。

251～253・255～259は口縁部外面に1条のみ横位貝殻刺突文を施し、その下位に斜位貝殻刺突文を施す。252・253・255は、斜位貝殻刺突文が羽状となる可能性もある。253は平坦な口唇部にキザミを羽状に施す。257・259は1列の斜位貝殻刺突文の下位にも1条の横位貝殻刺突文を施す。260は波状口縁で、口縁部外面に2条の横位貝殻刺突文を施し、その下位に斜位貝殻刺突文を1列施す。259・260は波状口縁である。

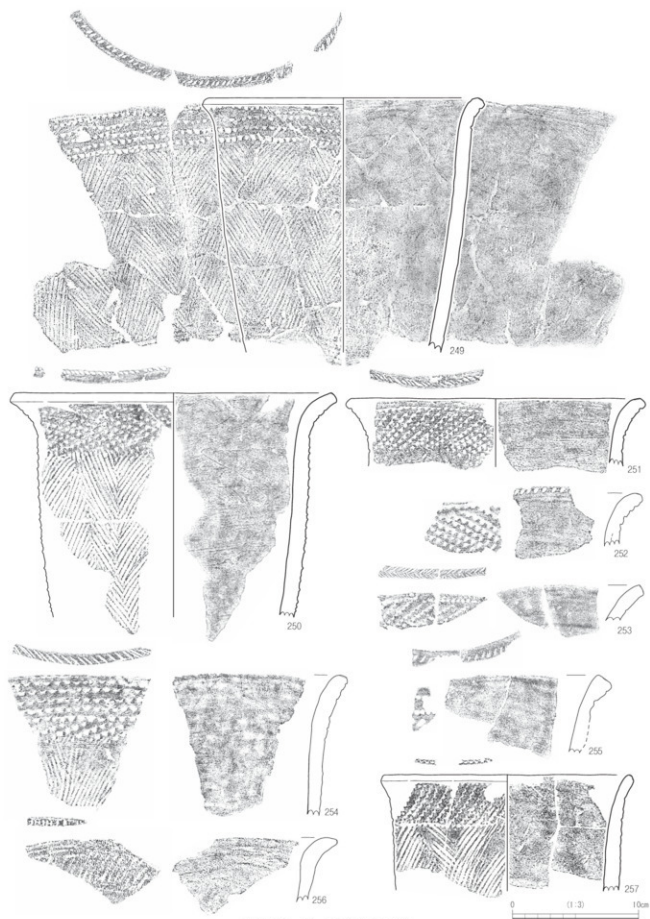
254は口縁部外面に5条の横位貝殻刺突文を施し、その下位に斜位貝殻刺突文を1列施す。

261～268は口縁部がやや外反する一群である。

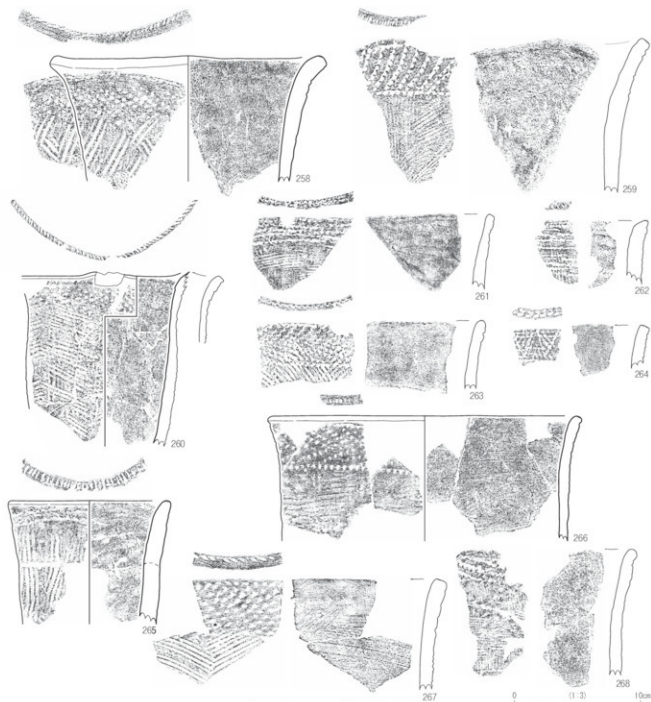
261・262・265は口縁部外面に横位貝殻刺突文のみを数条施す。261はやや丸みを帯びる口唇部に横位貝殻刺



第268图 IV-a-横断土器(1)



第269图 IV-a-横類土器(2)



第270図 N-a-横類土器 (3)

突文を2条、口縁部外面には5条の横位貝殻刺突文を施す。胴部は横位方向の貝殻条痕を施すが、ナデ消す部分が多い。内面は工具ナデをおこなう。265は口縁部外面に2～3条の横位貝殻刺突文を、胴部は縦位貝殻条痕文を施す。

263は口縁部外面に斜位貝殻刺突文を羽状に、その上位と下位に1条の横位貝殻刺突文を施す。丸みを帯びた口唇部に施す1条の横位貝殻刺突文も含め、貝殻刺突文は全て同じ施文原体である。

264は口唇部に2連の貝殻刺突文を1列施し、口縁

部外面に確認できる範囲のみだが、6条の横位貝殻刺突文を施し、その上から斜位貝殻刺突文を鋸歯状に施す。

266～268は口縁部外面に1条のみ横位貝殻刺突文を施し、その下位に斜位貝殻刺突文を施す。266・268は斜位貝殻刺突文の上下に横位貝殻刺突文を施す。268は丸みを帯びた口唇部に1条の横位貝殻刺突文をわずかに確認できる。

269～275は口縁部のみ外反する一群である。

269～273は口縁部外面に横位貝殻刺突文のみを数条

施す。269は4条の横位貝殻刺突文を施すが、部分的に横位貝殻刺突文の1条目と2条目間、2条目と3条目間にナデをおこなう。そのため、上下の刺突文は部分的につぶれている。胴部は縦位貝殻条痕文を施す。内面はていねいなナデをおこなう。270は5～6条の横位貝殻刺突文を施す。口縁部内面の上部はナデ、下部はケズリをおこなう。271は5～6条の横位貝殻刺突文を施すが、部分的に段差をもつ。胴部の綾杉状の貝殻条痕文は浅い。272は5条の横位貝殻刺突文を施す。胴部の綾杉状の貝殻条痕文は肉眼観察でははっきりしないほど浅く施

され、また摩滅している。273は平坦気味に整形された口唇部にためのキザミを、口縁部外面には2条の横位貝殻刺突文を施す。胴部の横位貝殻条痕文はほとんどをナデ消す。

274は横位貝殻刺突文の間に斜位貝殻刺突文を施し、横位貝殻刺突文は1条である。口唇部には2条の貝殻刺突文を施す。275は口縁部外面に斜位貝殻刺突文を施し、その上位は1条、その下位に2条の横位貝殻刺突文を施す。胴部の貝殻条痕文は摩滅するが、斜位や縦位に施すようである。



第271図 IV-a-横類土器(4)

IV-a-羽類 (第272図276～第275図295)

口縁部が外反し、口縁部外面に斜位貝殻条突文を羽状に施す一群である。

276～288は口縁部が外反する一群である。

276は胴部に横位及び縦位の貝殻条突文を重ねて施す。横位・縦位の先後関係はこの破片資料からは確認できない。丸みを帯びた口唇部はキザミを施す。

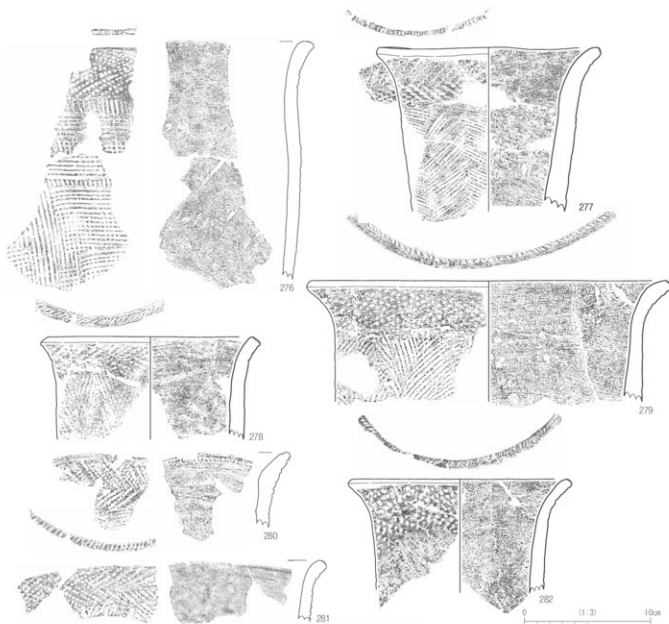
277～280・283・284・286～288は胴部に綾杉状の貝殻条突文を施す一群である。277は波状口縁で、内面は口縁部付近はミガキのようなナデ、その下位はナデとケズリをおこなう。278は胴部の綾杉状の貝殻条突文は摩滅する。280は口唇部内面側に横位貝殻条突文を1条施す。283は口縁部から底部まで残存している完形品である。丸みを帯びた口唇部にはキザミを、胴部下には横位貝殻条突文を施す。横位貝殻条突文は文様の重なり

から、胴部の綾杉状の貝殻条突文を施した後に施す。底面外部端部はキザミを施す。このキザミは最下部まで施した横位貝殻条突文をナデ消してから施す。底面外部はていねいなナデをおこなう。内面は口縁部付近から底部まで、工具ナデや指ナデをおこなう。284は底部は残存していないが、口縁部から胴部下まで窺える資料である。

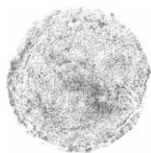
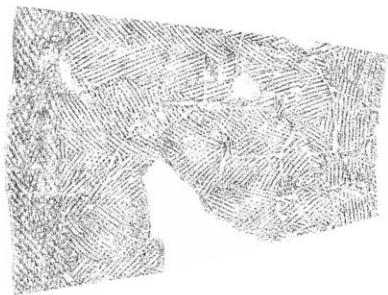
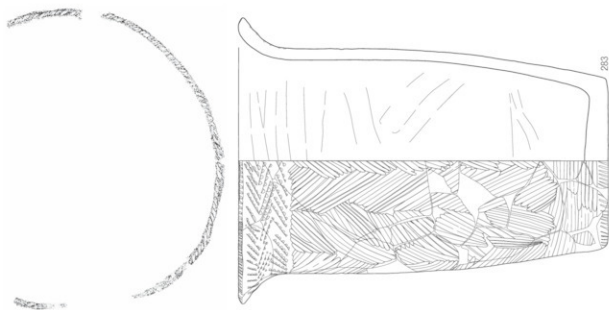
281は口縁部外面付近に貝殻条突文を羽状に施すが、場所により貝殻を刺突する方向が異なり、文様形態が変化する。また羽状の貝殻条突文の下位には、斜位貝殻条突文を施す。胴部は貝殻条突文を施す。

282は胴部文様が完全に摩滅しており不明である。

285は口縁部付近のみの破片資料で、胴部文様は確認できない。



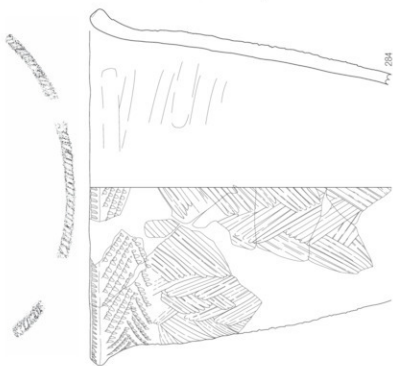
第272図 IV-a-羽類土器(1)



第 273 图 IV-a-羽類土器 (2)



第274图 IV-a-羽纹土器(3)



289～293は口縁部がやや外反する一群である。

289は胴部に綾杉状の貝殻条痕文を施す。平坦に整形された口唇部に縦位貝殻刺突文を1列施す。

290は胴部に斜位貝殻条痕文を施す。

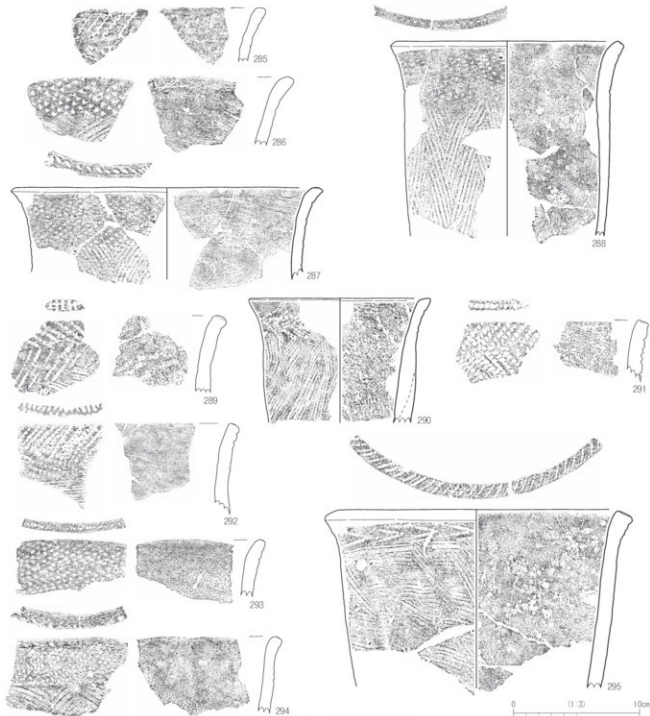
291・293は口縁部付近のみの破片資料で、胴部文様は確認できない。291は平坦に整形された口唇部に横位貝殻刺突文を1条施す。

292は胴部に横位貝殻条痕文を施す。

294・295は口縁端部のみ外反する。

294は胴部に綾杉状の貝殻条痕文を施す。口縁部外面上部の貝殻刺突文と胴部の貝殻条痕文との間に、横位貝殻刺突文を1条施し文様区画とする。

295は口縁部外面上部に、他の土器の文様と比較すると羽状間が広い貝殻刺突文を施す。その下位には横位の貝殻条痕文を1条施し、胴部文様との文様区画とする。胴部には施文方向の異なった2種類の斜位貝殻条痕文を施す。



第275図 IV-a-羽類土器(4)

IV-a-縦類 (第276図296～第277図303)

口縁部が外反し、口縁部外面に縦位貝殻刺突文を施す一群である。

296・298は口唇部が外反する。296は口唇部に貝殻刺突文、口縁部外面上部に縦位貝殻刺突文、胴部に貝殻条痕文を同一の施文原体で文様を施す。貝殻条痕文が細かいことから施文原体は小型の貝殻である。口縁部外面には、縦位貝殻刺突文を2列施す。胴部の貝殻条痕文は様々な方向に施す。298の縦位貝殻刺突文は部分的にナデ消す。胴部には横位に近い斜位貝殻条痕文を施し、部分的に縦位貝殻条痕文も確認できる。内面は工具ナデをおこない、口縁部付近は特にいいいである。器壁は厚いが、外器面が剥落する部分がある。

297・299～303は口縁部がやや外反する一群である。

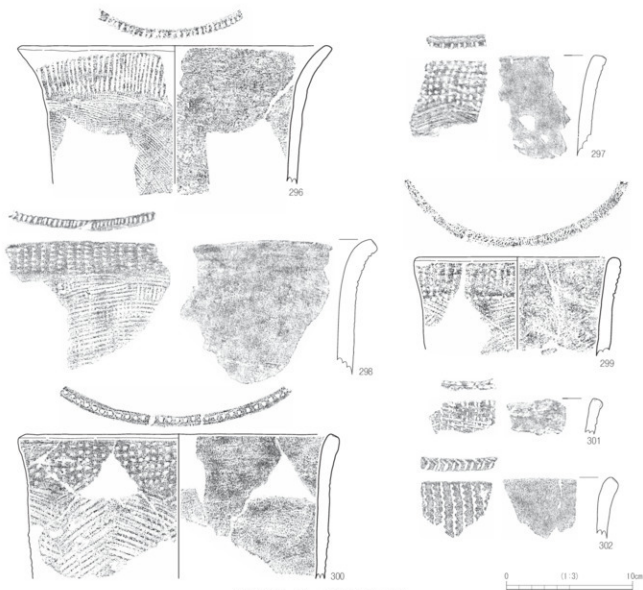
297・300・303は胴部に綾杉状の貝殻条痕文を施す。

297は口唇部の外側端部に貝殻で押圧気味のキザミを施

す。口唇部頂部はナデ調整により平坦に整形され、部分的に口唇部が平坦になる。303は口縁部から底部まで残存している。口唇部は外側端部にキザミを施す。口縁部外面の縦位貝殻刺突文と胴部の綾杉状の貝殻条痕文の間に、横位貝殻刺突文を1条施し文様区画とする。内面は全面に工具ナデをおこなう。

299はやや平坦気味な口唇部にキザミを施す。口縁部外面の縦位貝殻刺突文の下位には、横位貝殻刺突文を1条施し、胴部の貝殻条痕文との文様区画とする。胴部には斜位や横位の貝殻条痕文を施す。

301・302は口縁部付近のみの破片資料で、胴部文様は確認できない。301の口縁部外面は、2連の縦位貝殻刺突文を1組とした文様である。口唇部の貝殻刺突文も2連で施す。器形の整形や器面調整が他の同類の土器と比較して粗い。302の口唇部にはキザミを羽状に施す。



第276図 IV-a-縦類土器 (1)



第 277 图 IV-a-纹样土器 (2)



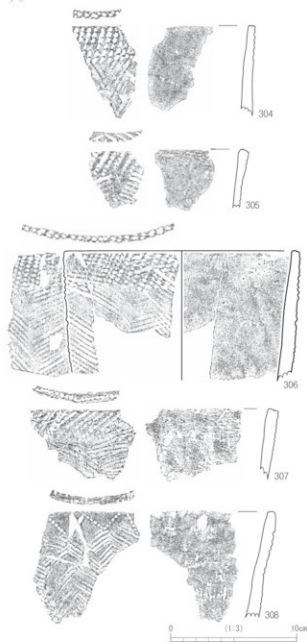
第278図 遺物分布図 (IV-b類)

IV-b-斜類 (第279図304～第282図322)

口縁部が外傾し、口縁部外面に斜位貝殻刺突文を施す一群である。瘤状突起をもつものも見られる。

304～309は胴部に綾杉状の貝殻条痕文を施す。308は斜位貝殻刺突文を鋸歯状に施す。口唇部は縦位貝殻刺突文を施した後、ほとんどをナデ消す。309と310は口縁部外面上部まで貝殻条痕文を施した後、斜位貝殻刺突文を施す。口縁部外面の貝殻刺突文と胴部の貝殻条痕文を1条の横位貝殻刺突文で文様区画とする。

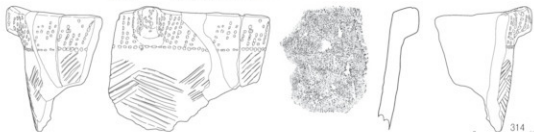
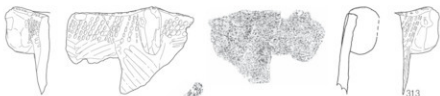
312は破片資料で全体は不明であるが、口縁部外面のみに文様を施し、胴部に文様をもたない。胴部はナデが確認でき、摩滅等で文様が消えたわけではないことが分かる。平坦に整形された口唇部は縦位貝殻刺突文を施す。



第279図 IV-b-斜類土器 (1)

311～322は口縁部外面に瘤状突起をもつ土器の一群である。

311・313・314は、胴部に綾杉状の貝殻条痕文を施す。311は口唇部に横位貝殻刺突文を施す。瘤状突起にも外面同様の貝殻刺突文を施す。瘤状突起には、焼成前に右方向から左方向に棒状工具による穿孔を施す。瘤状突起は先端部が欠損する。313と314は瘤状突起がわずかに盛り上がり、わずかな波状口縁となる。313は平坦に整形される口唇部に縦位貝殻刺突文を施す。三角形になる瘤状突起は上面のみ縦位の貝殻刺突文を施す。三角形の先端部から側面の一部は欠損するが、側面はナデをおこなう。314は内外面の剥落が著しいが、口唇部に刺突文を施す。瘤状突起は、四角形状に面取りされ、前面、右側面、左側面にわずかに刺突文を確認できる。口縁部外面の斜位貝殻刺突文と胴部の綾杉状の貝殻条痕文



第280図 IV-b-斜類土器(2)

とは、1条の横位貝殻刺突文で文様区画とする。胎土には石英が多く含まれる。

315・316は胴部に斜位貝殻刺突文を施す。口唇部は平坦に整形され、縦位貝殻刺突文を施す。同一の施文原体で口縁部外面や、瘤状突起に貝殻刺突文を施す。瘤状突起は上面・側面・前面が面取りされ、下部は丸みを帯びる。面取りされた面には縦位貝殻刺突文を施す。胴部には浅い斜位貝殻刺突文を施す。316は波状口縁で、波頂部外面に瘤状突起をもつ。口唇部は内傾し、波頂部では特に傾斜が顕著である。ていねいなナデをおこなった口唇部に文様はもたない。口縁部外面の斜位貝殻刺突文は波状に沿って施し、その下位にも横位貝殻刺突文を施す。瘤状突起の側面と前面

には縦位貝殻刺突文を施す。瘤状突起直下には貼り付け時の指おさへの痕跡が明瞭に残る。胴部には浅い貝殻刺突文をおこなう。

317は胴部に横位貝殻刺突文を施す。瘤状突起がわずかに盛り上がり、わずかな波状口縁である。口唇部は平坦に整形され、貝殻刺突文を施す。三角形に飛び出す瘤状突起に縦位貝殻刺突文を施す。口縁部外面は1条の横位貝殻刺突文で胴部の貝殻刺突文と文様区画とするが、瘤状突起直下のみさらに横位貝殻刺突文を一条施す。胴部はごく浅い横位貝殻刺突文を施す。内面はヘラ状工具によるていねいなナデをおこなう。

318～322は口縁部付近のみの破片資料で、胴部文様は確認できない。318は丸みを帯びた口唇部に貝殻刺突文を施す。瘤状突起は丸みを帯び、側面及び前面に縦位貝殻刺突文を施す。内面はヘラ状工具によるナデをおこなうが、口縁部付近のみていねいな指ナデをおこなう。319の口唇部は平坦に整形され、1列の縦位貝殻刺突文を施す。口縁部外面に施す斜位貝殻刺突文は、密である。瘤状突起は側面と前面が面取りされるが、一部は欠



第281図 IV-b-斜類土器(3)

損する。320は平坦に整形した口唇部に横位貝殻条痕文を施す。瘤状突起は上面・側面・前面を面取りし、下面のみ丸みを帯びる。上面は口唇部同様に横位貝殻刺突文を、側面及び前面は縦位貝殻刺突文を施す。321・322は同一個体と考えられる。波状口縁で、縦長の瘤状突起分が波頂部となる。口唇部は内傾する。瘤状突起は面を整形しているとは言えないが、上面・側面・前面を形成する。前面は曲線を描きそのまま胴部へ接合する。瘤状突起全面に貝殻刺突文を施す。瘤状突起側面には上下2ヶ所で焼成前に穿孔を施し、貝殻刺突文は穿孔部を避けて施す。口縁外面の斜位貝殻刺突文の下位に、1条の横位貝殻刺突文を施し、その下位にさらに斜位貝殻刺突文を施す。内面はついでいなナデをおこなう。

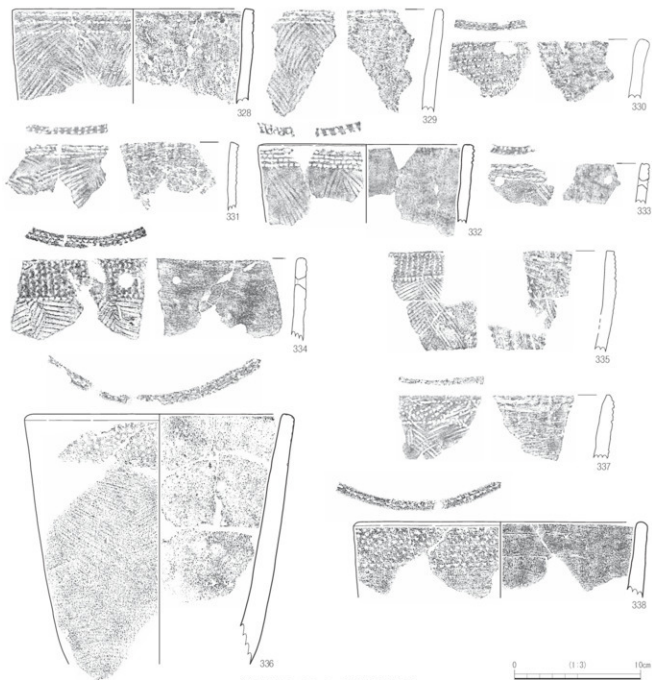
IV-b-横類 (第282図323～第285図347)

口縁部が外傾し、口縁部外面に横位貝殻刺突文を施す一群で、口縁部外面文様の最上段に1条でも横位貝殻条痕文を施せば、この類に分類した。瘤状突起をもつものも見られる。

323～329・331～333は口縁部外面に横位の貝殻刺突文のみを数条施す。323・325は2条の横位貝殻刺突文を施す。口唇部は平坦に整形され、ナデをおこなうが無文である。胴部には斜位貝殻条痕文を施す。内面はケズリをおこなうが、口縁部付近のみ指ナデとなる。323は胴部の襷杉状の貝殻条痕文を粗く施すが、内面のナデはついでである。327は3条の横位貝殻刺突文を施すが、平坦に整形した口唇部と口縁部の境に2連の貝殻刺突文を施すことから、口縁部外面最上位の横位貝殻刺突



第282図 IV-b-斜類土器(4)・IV-b-横類土器(1)



第283図 IV-b-横類土器(2)

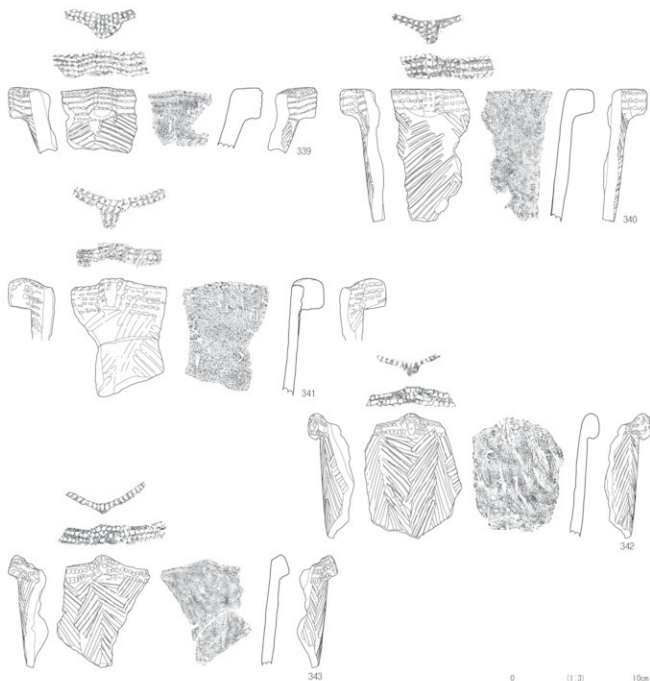
文と口唇部文様が重なり合う。324・326・328・329も3条の横位貝殻刺突文を施す。326の口唇部は2連の貝殻刺突文を施す。328・329の口唇部は平坦に整形されるが無文である。329は胴部に浅い綾杉状の貝殻条痕文を施す。330は7条の横位貝殻刺突文と縦位の貝殻刺突文を施す。口唇部は横位貝殻刺突文を2条施す。331は3～4条の横位貝殻刺突文を施す。332は4条の横位貝殻刺突文を施す。胴部は貝殻条痕文を鋸歯状に施す。333は4～5条の横位貝殻刺突文を施す。平坦に整形された口唇部は2連の貝殻刺突文を施し、胴部は浅い綾杉状の貝殻条痕文を施す。また内外面から回転穿孔による

補修孔をもつ。

334～338の口縁部外面は、縦位貝殻刺突文が目立つが、その上下に1条の縦位貝殻条痕文を施し、口縁部文様を構成する。334の胴部は斜位からやや横位の貝殻条痕文を施す。口縁部には回転穿孔による補修孔が、外面側：内面側が9：1の割合で垂直方向に開けられる。口唇部は刺突文を2条施す。内面はていねいなナデをおこなう。336は平坦に整形された口唇部に2条の横位貝殻刺突文を施す。胴部に貝殻条痕文を非常に浅く施すが、肉眼観察ではほとんど見えない。内面はていねいな工具ナデをおこなう。338は胴部が無文である。

339～347は、口縁部外面上部に瘤状突起をもつ一群である。339～344は、瘤状突起上部を頂部にやや波状口縁となる。339・340・342～344・346は、瘤状突起にも口縁部外面同様の横位貝殻刺突文を施す。341の瘤状突起の左側面には、横位刺突文がみられるが、正面と右側面には、斜位のような刺突文がみられる。345の瘤状突起は無文である。339～341・346は、口唇部と瘤状突起上部に刺突を施す。342・343は、口唇部に押圧状のキザミをもつ。344・345の口唇部は無文である。339～347の胴部は、綾杉状の貝殻条痕文を施す。342・

344・345の内面は、やや雑な工具ナデをおこなう。343の瘤状突起の下部は、焼成される過程で粘土の貼り付け部分が欠落した可能性のある剥落痕がある。347は、口縁部外面に羽状の貝殻刺突文が目立つが、その上下に1条ずつ横位貝殻刺突文を施し、口縁部文様を構成する。口縁部外面上部に逆三角状の瘤状突起をやや斜位にもつ。瘤状突起にも口縁部外面同様の文様を施す。胴部外面は綾杉状の貝殻条痕文を施し、口唇部には1条の貝殻刺突文を施すが、瘤状突起上面は2条である。



第284図 IV-b-横類土器(3)



第285图 IV-b-横類土器(4)

IV-b-羽類 (第286図348)

口縁部が外傾し、口縁部外面に羽状の貝殻刺突文を施す一群で、瘤状突起をもつものもあるが出土数は少ない。

348は、口縁部外面上部に突起のような丸みを帯びた膨らみ(突起)をもち、その突起上部を頂部としやや波状口縁となる。突起にも口縁部外面同様の文様を施し、その下位には斜位貝殻条痕文を施す。口唇部は刺突文を施し、内面はナデをおこなう。

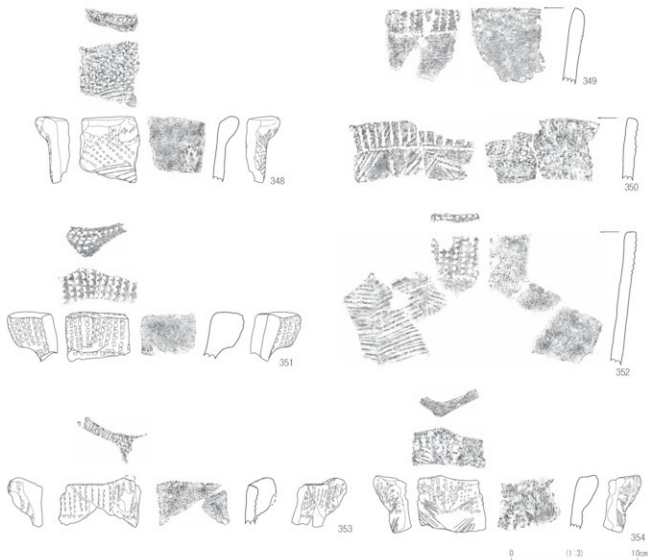
IV-b-縦類 (第286図349～第287図357)

口縁部が外傾し、口縁部外面に縦位貝殻刺突文を施す一群である。瘤状突起をもつものもある。

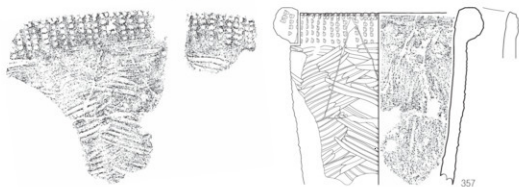
349・350・352は、口縁部外面の縦位貝殻刺突文直下に1条の横位貝殻刺突文を施す。349の口唇部及び胴部外面は、無文である。胴部外面はわずかであるがナデ調

整を確認できる。内面にはススが附着する。350の口唇部は無文で、胴部外面に襜紗状の貝殻条痕文を施す。内面は工具ケズリをおこなう。352は口唇部に1条の刺突文を、胴部外面に襜紗状の貝殻条痕文を施す。

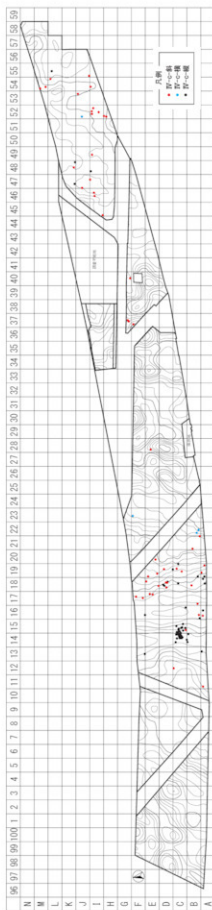
351・353～357は、口縁部外面上部に瘤状突起をもつ一群で、瘤状突起上部を頂部にやや波状口縁となる。瘤状突起にも口縁部外面同様の文様を施す。その縦位貝殻刺突文直下に351・353～355は、横位刺突文を施す。351・355・356は口唇部に刺突文を施す。351・355は瘤状突起上部にも刺突文を施す。353の口唇部では瘤状突起を下に真上から見ると、瘤状突起左端までは斜位貝殻刺突文を、それより左側は細いキザミを施す。354は逆三角状の瘤状突起で口唇部に文様をもたない。354～357は、胴部に斜位条痕文を施すが、357のみ縦位刺突文の上から条痕文を施す。354・357の内面は、工具ケズリをおこなう。355の胎土には石英が多く含まれ器壁が厚い。



第286図 IV-b-羽類土器・IV-b-縦類土器(1)



第287図 IV-b-縦類土器(2)

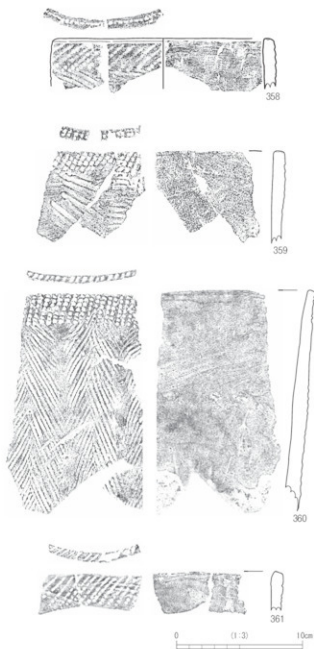


第288図 遺物分布図 (IV-c類)

IV-c-斜類 (第289図358～361)

口縁部が直行し、口縁部外面に斜位貝殻刺突文を施す一群である。

358～360は、口縁部外面の斜位貝殻刺突文直下に、綾杉状の貝殻条痕文を施す。先後関係は、いずれも綾杉状の貝殻条痕文が先である。358・360の内面は工具ナデをおこなう。358は口唇部に貝殻刺突文を施す。359は口縁部に2条の貝殻刺突文を施す。360・361は、口縁部外面の斜位貝殻刺突文に一連の流れとして続くようなキザミを口唇部に施す。その貝殻刺突文とキザミの幅や施文方向は、ほぼ同じである。361の胴部文様は不明である。



第289図 IV-c-斜類土器

IV-c-横類 (第290図362～第291図370)

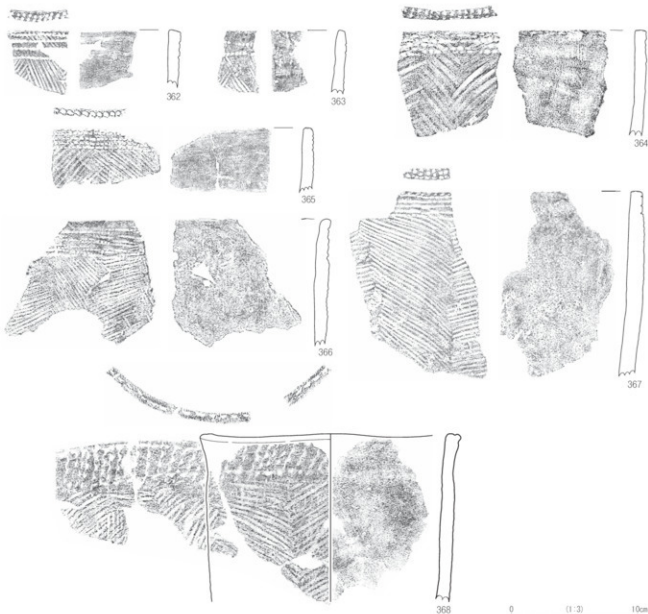
口縁部が直行し、口縁部外面に横位貝殻刺突文を施す一群である。瘤状突起をもつものも見られるが、他の類と比較し出土数は極端に少ない。

362・364・365は、口縁部外面上部から器面全体に綾杉状の貝殻条痕文を施した後、口縁部外面に4条の横位貝殻刺突文を施す。362は、口唇部に2連の貝殻刺突文を施す。363・366は、口唇部は無文である。口縁部外面上部からやや間を空け、横位貝殻条痕文を施す。胴部は綾杉状の貝殻条痕文を横位貝殻刺突文より先に施す。363の横位貝殻条痕文は雑だが密である。367は、口唇部に2～3連の貝殻刺突文を、胴部外面に綾杉状の貝殻条痕文を施す。口縁部は横位貝殻刺突文より先に貝殻条痕文を施す。368は口唇部に刺突文を1条施す。口縁部

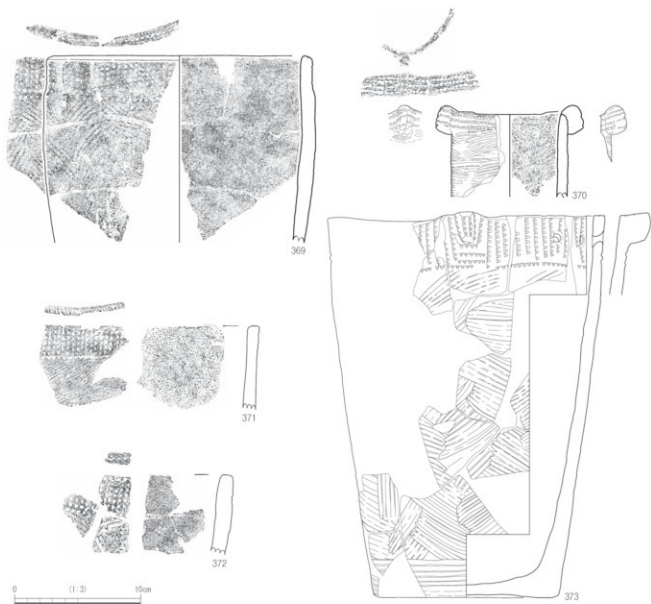
外面にやや斜位貝殻刺突文が目立つが、その上下に1条ずつ横位貝殻刺突文を施し、口縁部文様を構成する。

369の口縁部は、外面からの強いナデ調整により、一段凹ませる。その一段凹ませた部分に、縦位貝殻刺突文を扶むように、上位に1条、下位に2条の横位貝殻条痕文を施し、口縁部文様を構成する。胴部は綾杉状の貝殻条痕文を施す。口唇部は貝殻刺突文を1条施す。内面はいいいなナデをおこなう。

370は、口縁部外面上部に瘤状突起をもち、瘤状突起上部を頂部にやや波状口縁となる。瘤状突起にも口縁部外面同様の文様を施す。口唇部は無文である。瘤状突起の下部に貼り付け痕がある。胴部は斜位と横位の貝殻条痕文を施す。内面は工具ナデをおこなう。



第290図 IV-c-横類土器(1)



第291図 N-c-横類土器(2)・N-c-縦類土器(1)

N-c-羽類

口縁部が直行し、口縁部外面に羽状の貝殻刺突文を施す一群である。確認できなかった。

N-c-縦類(第291図371～第292図373)

口縁部が直行し、口縁部外面に縦位貝殻刺突文を施す一群である。瘤状突起をもつものもある。

371は、口縁部外面の縦位貝殻刺突文直下、貝殻腹縁による横位刺突文を施す。胴部には、ごく浅い条痕文を斜位に施す。口唇部は平坦に整形され、キザミを施す。内面はていねいなナデや指おさえをおこなう。372は、口縁部外面の縦位貝殻刺突文直下から、斜位貝殻条痕文を施す。口唇部に刺突文を施す。内面はナデをおこなう。373は、接合できなかった同一個体片を含めるとほぼ完形となる。口縁部外面上部に瘤状突起をもち、口

縁部外面同様の文様を施す。縦位貝殻刺突文直下に1条の横位貝殻刺突文を施す。その横位貝殻刺突文から瘤状突起の下部の間にのみ3条の横位貝殻刺突文を施す。口縁部には焼成後に開けられた回転穿孔が2つあり、その間隔は2.5cm程である。外面から見て右側の穿孔は、内外面から垂直に穿孔される。左側の穿孔は外面側は上方向、内面側は下方向から穿孔される。口唇部は平坦で貝殻刺突文を1条施すが、瘤状突起の上部のみ2条施す。胴部に波状の貝殻条痕文を施した後、胴部下部に横位貝殻条痕文を施す。底部外面端部には、キザミを施す。口縁部内面・胴部内面は工具ナデ、底面内面は指おさえをおこなう。373に施す貝殻刺突文は、いずれも殻頂を右にした貝殻腹縁によるものである。また、胴部外面の剥落が著しい部分のみが黒色を帯び、焼成不足と考えられる。



第292圖 IV - c - 鏡類土器 (2)

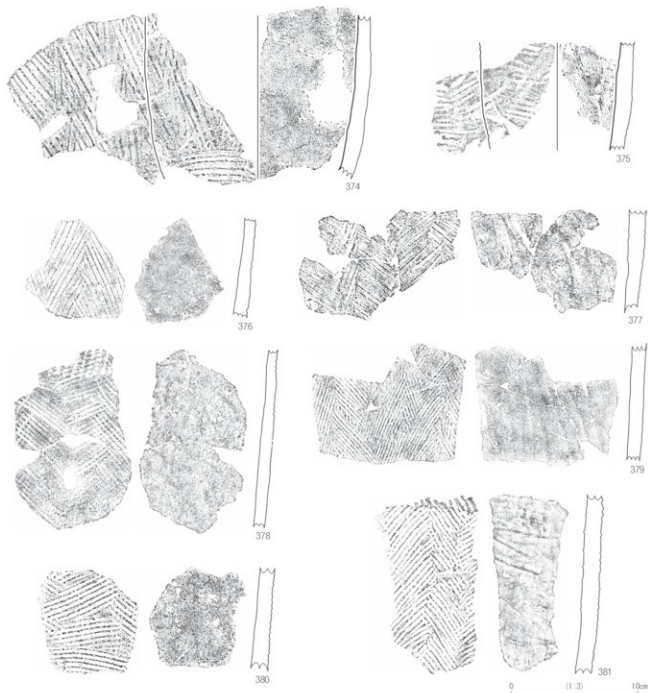
IV類胴部 (第293図374～381)

口縁部や底部と接合しなかった胴部である。

374～377・379は、やや膨らみもちながら立ち上がる胴部である。374の外面上位に綾杉状の貝殻条痕文を施した後、下位に横位貝殻条痕文を施す。同一の施文原体と考えられる。375の外面には、斜位貝殻条痕文を施す。376は外面に3～4条を一単位とする綾杉状の貝殻条痕文を施す。377の内面は、工具ナデをおこなう。外面の条痕は浅い部分と深い部分が見られる。379の内面

は、指おさえやナデをおこなう。外面は貝殻条痕文を斜位に施すが浅い、外面全体にススが附着する。

378・380・381は、直線的に立ち上がる胴部である。378は 外面全体を貝殻で調整した後、外面上位に斜位貝殻刺突文を施す。外面の一部にススが附着している。380は外面に6～7条を一単位とする貝殻条痕文を斜位や横位に施す。381の内面は、ていねいな工具ナデをおこなう。外面は綾杉状の貝殻条痕文を施した後、上位に斜位貝殻刺突文を施す。



第293図 IV類胴部

Ⅳ類底部 (第294図382～第298図418)

口縁部と接合しなかった胴部から底部で、以下のような基準で4つに細別した。

	底部外面端部にキザミ	胴部下部に横位条痕文
ア類	有	有
イ類	無	有
ウ類	有	無
エ類	無	無

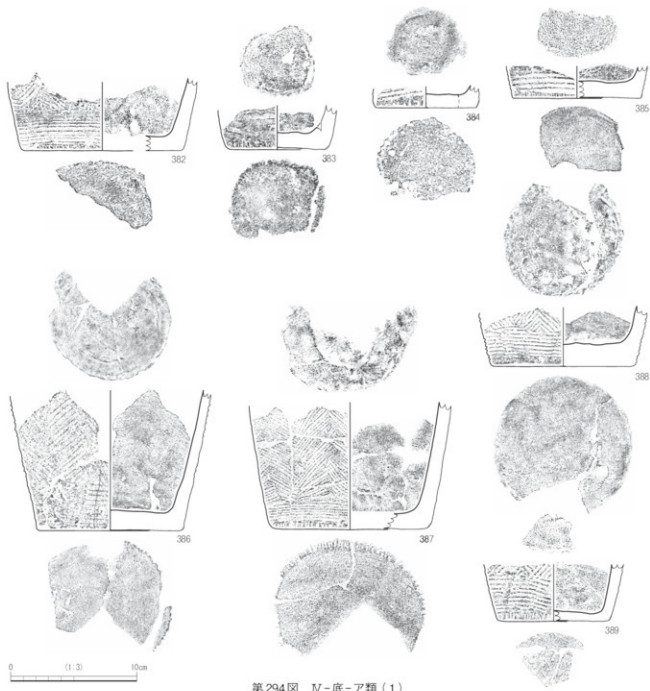
Ⅳ-底-ア類 (第294図382～第296図401)

底部外面端部にキザミ、胴部外面下部に横位条痕文を施す一群である。

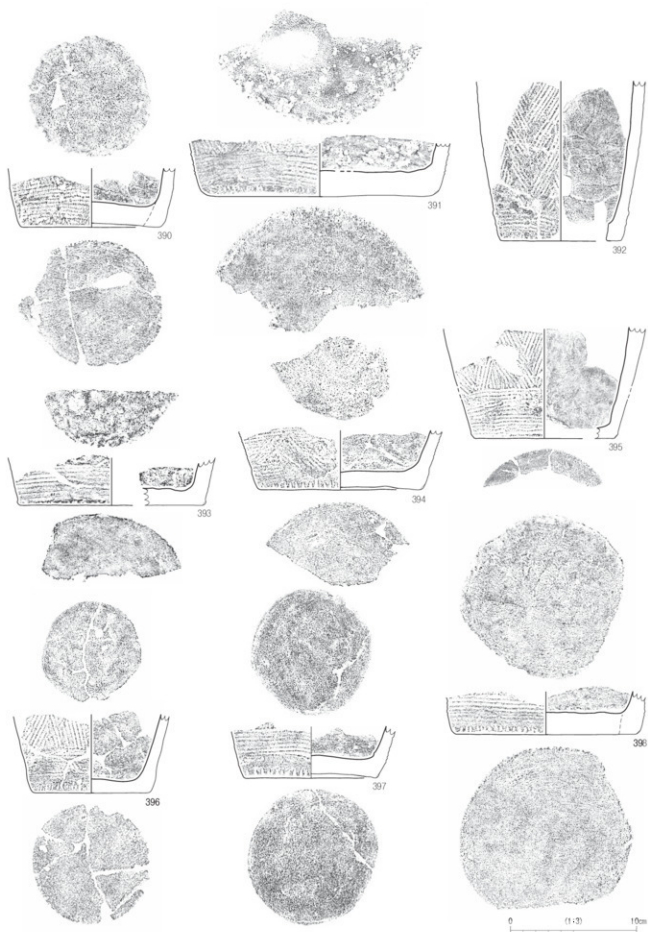
386～400は、胴部外面に綾杉状の貝殻条痕文を施した後、胴部下部に横位貝殻条痕文を施す。392・399は、胴部下部に横位貝殻条痕文を施した後、上位に綾杉状の貝殻条痕文を施す。393・394の胴部外面の施文は不明であるが、胴部下部に横位貝殻条痕文を施す。

382～393・395は、胴部下部に横位貝殻条痕文を施した後、底部外面端部にキザミを施すが、そのキザミは横位施文を明確に切らない。

394・396～398は、胴部下部に横位貝殻条痕文を施し、底部外面端部近くの横位施文をナゲ消した後、底部外面端部にキザミを施す。



第294図 Ⅳ-底-ア類 (1)



第295図 N-底-A類(2)

399・401は、胴部下部に横位貝殻条痕文を施した後、底部外面端部にキザミを施し、そのキザミは横位施文を明確に切る。

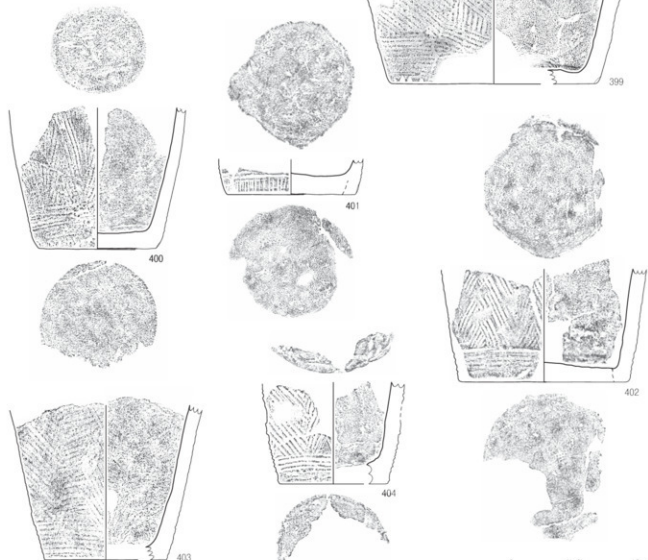
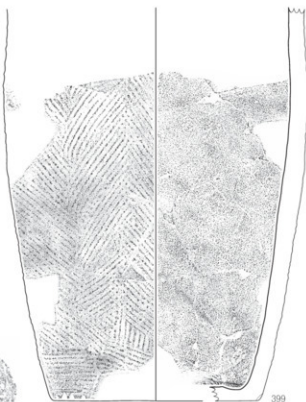
400は、胴部下部に横位貝殻条痕文を施した後、底部外面端部にキザミを施すが、横位貝殻条痕文とキザミの間は無文部となる。

Ⅳ-底-イ類 (第296図402～第297図408・410)

底部外面端部にキザミをもたず、胴部外面下部に横位の条痕文を施す一群である。

402～404は、胴部外面に綾杉状の貝殻条痕文を施した後、胴部下部に横位貝殻条痕文を施す。405～408・410は、胴部外面の施文は不明であるが、胴部下部に横位貝殻条痕文を施す。

408の底部外面端部は、やや丸みを帯びる。



第296図 Ⅳ-底-ア類 (3)・Ⅳ-底-イ類 (1)

Ⅳ-底-ウ類 (第297図409・411～413)

底部外面端部にキザミを施し、胴部下部に横位の条痕文をもたない一群である。

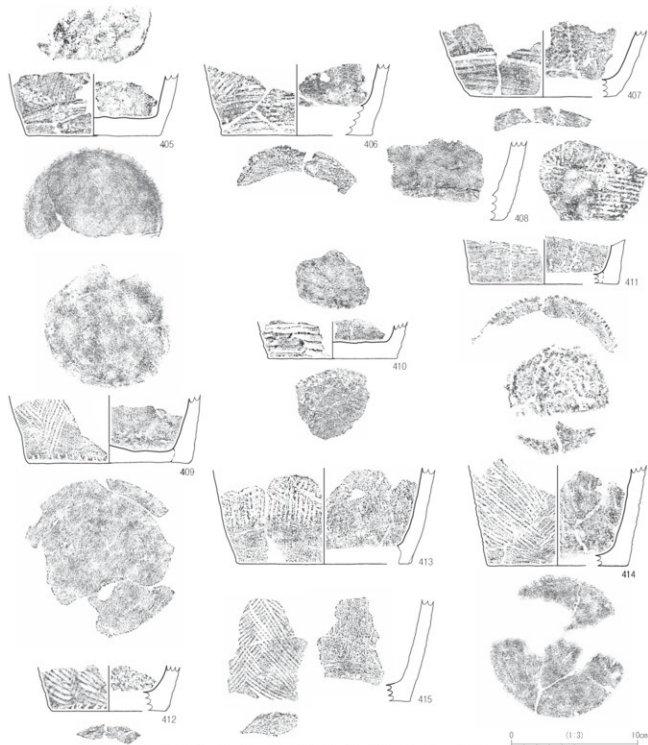
409は一部に胴部上位の斜位貝殻条痕文を施す。

411・413は、胴部下部に文様をもたない。412は胴部上位の斜位貝殻条痕文を底部下部まで施す。

Ⅳ-底-工類 (第297図414～第298図418)

底部外面端部にキザミをもたず、胴部外面下部に横位の条痕文をもたない一群である。414～417は、底部外面端部付近まで文様を施す。414・415は綾杉状の条痕文、416は縦位や斜位の条痕文、417は、斜位貝殻条痕文である。

418は、胴部がほぼ直立する器形で文様をもたない。



第297図 Ⅳ-底-イ類(2)・Ⅳ-底-ウ類・Ⅳ-底-工類(1)

Ⅳ類系土器 1 (第298図419～第300図434)

器形がⅣ類に該当し、二重文様を施す一群である。419は、外傾し口縁部外面上部に瘤状突起をもつ口縁部である。419と同一個体と考えられる瘤状突起をもたない口縁部も出土し、合わせて3/5の径を復元できる。このことから瘤状突起は2箇所以下と推測できる。瘤状突起には、焼成前に開けられた回転穿孔をもつ。口縁部外面は、横位貝殻刺突文を3～4条施すが、瘤状突起近くや瘤状突起では、縦位刺突文に変わる。横位貝殻刺突文

の下位に横位や斜位・縦位の貝殻条痕文を施した後、2～3条の縦位貝殻刺突文を施す。その縦位貝殻刺突文を中心にV字状に斜位刺突文を幾つも施す。口唇部は、ていねいなナデで平坦に整形され、斜位にキザミを施す。内面はナデをおこなう。420は、419と同一個体と考えられる胴部から底部である。胴部外面上位は、419同様、横位や斜位・縦位貝殻条痕文を施した後、2～3条の縦位貝殻刺突文を施す。その縦位貝殻刺突文を中心にV字状に斜位貝殻刺突文を幾つも施すが、胴部下部ま



第298図 Ⅳ-底-工類(2)・Ⅳ類系土器 1 (1)



第299図 IV類系土器1(2)

では及ばない。胴部下部は、横位貝殻条痕文を施すのみである。底部外面端部は、キザミを斜位に施す。底部外面は、いねいなナデをおこなう。写真図版では上部の接合が外れている。

421は、口縁部から胴部で、口縁部が外反するものである。口縁部外面は横位貝殻刺突文を施す。その下位に綾杉状の貝殻条痕文を施した後、浅い縦位刺突文を施すが、施工具は不明である。口唇部は斜位のキザミを施す。口縁部内面はナデを、その下位は縦位や斜位・横位の工具による調整をおこなう。

422・423は、同一個体と考えられ口縁部端部が外反する口縁部である。口縁部外面上部は、斜位貝殻刺突文を施し、その直下に横位刺突文を施す。胴部は、貝殻刺突文をランダムに施した後、工具不明の深い「へ」の字状の条痕文をもつ。いねいなナデを帯びた口唇部頂部にキザミをもつ。425も、422・423と同一個体と考えられる胴部から底部である。「へ」の字状の条痕文はもたないが、斜位や横位に深く短い条痕文を施す。胴部下部は無文で、底部外面端部にキザミをもたない。

424は胴部である。外面に綾杉状の貝殻条痕文を深く施した後、横位刺突文を施すが、刺突具は不明である。上位は幅の狭い2条の刺突文を、中央はそれより幅広の

2条の刺突文を施す。内面は、いねいなナデをおこなう。

426は、外反する器壁の薄い口縁部である。口縁外面上部は貝殻腹縁による刺突文を横位からやや斜位に施す。その直下に、同様の斜位刺突文を施す。やや丸みを帯びた口唇部頂部に、キザミを施す。427は、426と同一個体と考えられる胴部である。外面に貝殻条痕文を施した後、貝殻刺突文を斜位や縦位に施す。426・427の内面は、工具ナデをおこなう。

428は膨らみをもつ胴部である。外面に貝殻条痕文を縦位や斜位に施した後、上位にV字状の貝殻刺突文を施す。外面上位の一部にススが附着する。内面は、工具によるいねいなナデをおこなう。

429は、底部近くの胴部である。外面上位は、綾杉状の貝殻条痕文を施した後、縦位刺突文を数条施す。下位は、横位貝殻条痕文を施すのみである。

430は底部がわずかに残る胴部である。外面上位2/3に綾杉状の貝殻条痕文を施した後、上位にV字状の貝殻刺突文を施す。下位1/3は、横位貝殻条痕文を施すのみである。底部外面端部にわずかなキザミを施す。内面は、工具ナデをおこなう。

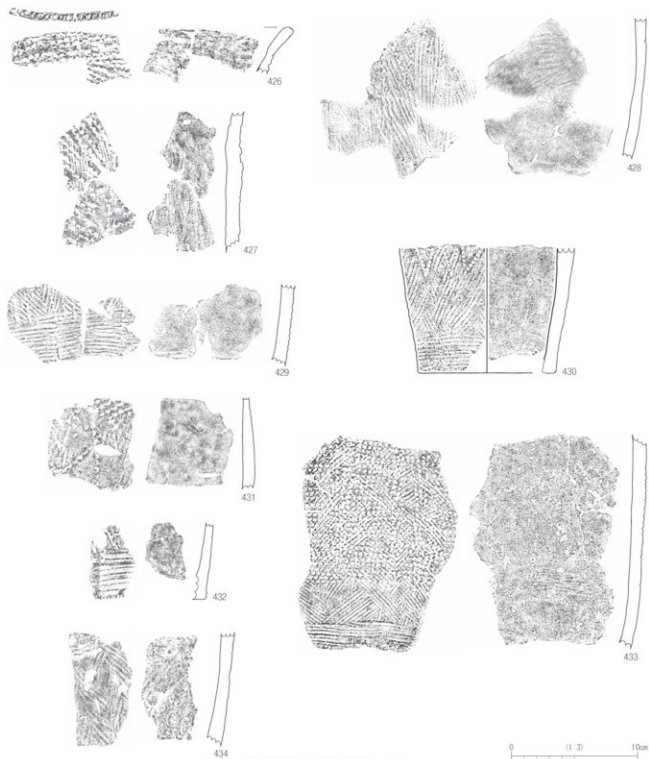
431は、内腹では観察しにくい条痕文を外面に施す胴部である。条痕文施文後に、貝殻刺突文を施す。上位の

貝殻刺突文は斜位に、下位の貝殻刺突文はX(エックス)状に施す。内面は、ていねいなナデをおこなう。432は431と同一個体と考えられる胴部から底部である。胴部外面下部は横位貝殻条痕文を施す。底部外面端部に、キザミをもたない。

433は胴部である。外面上位2/3は綾杉状に貝殻条痕

文を施した後、横位やV字状に貝殻刺突文を施す。その下位は、綾杉状の貝殻条痕文のみを施す。最下部には横位貝殻条痕文のみを施す。内面はナデをおこなう。

434はやや膨らみをもつ胴部である。外面に斜位貝殻条痕文を施し、一部に貝殻刺突文を施す。内面は、工具による荒い調整がおこなわれ、内面にはススが付着する。



第300図 IV類系土器1(3)

Ⅳ類系土器 2 (第301図435～441)

器形もしくは施文等がⅣ類に該当するが、Ⅳ類系土器 1 に該当しない一群である。

435・437は、同一個体である。口縁部は胴部より器壁が薄くなり、口縁端部がやや外反する。口唇部はやや丸みを帯び、文様をもたない。外面上部から胴部にかけて、貝殻腹縁による刺突文を羽状に施す。内面はナデをおこなう。

436は口唇部がやや内傾する口縁部である。口縁部外面上部に横位貝殻条痕文を施し、その下に斜位貝殻条痕文を施す。平坦に整形された口唇部は、1もしくは2つの刺突文を施す。内面はていねいなナデをおこなう。

438は口縁部が肥厚し、やや内湾する口縁部である。口縁部外面上部は、横位刺突文を施すが、極小である。その下位には、斜位刺突文と、調整か施文かは不明だが縦位の条痕も確認できる。

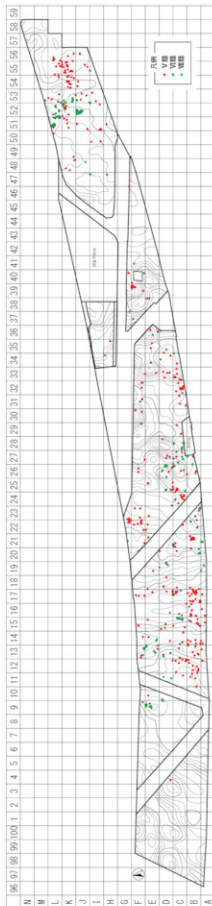
439は若干内湾する口縁部である。口縁部外面上部は、横位刺突文を施す。その下に斜位条痕文を施した後、斜位刺突文を施す。やや平坦に整形された口唇部は、1もしくは2つの刺突文を施す。内面は、やや雑な工具ナデをおこなう。

440はやや外反する口縁部である。外面上部は、縦位刺突文を、その下位に縦位や斜位の条痕文を施す。丸みを帯びた口唇部には刺突文を施す。内面はていねいなナデをおこなう。

441は、口縁部外面上部に瘤状突起をもち、瘤状突起上部を頂部としやや波状となる口縁部である。瘤状突起にも口縁部外面同様の文様を施す。口唇部に施文はもたない。瘤状突起の下部に貼り付け痕が見られ、貼り付けの際の指おさが明瞭である。胴部外面上位の一部に斜位貝殻条痕文を施す。内面は、工具によるやや雑なナデをおこなう。



第301図 Ⅳ類系土器 2



第302区 遺物分布図 (V・V・VI類土器)

V類土器 (第303図442～第307図482)

器形は、底部から胴部まで開き気味に立ち上がり口縁部で内湾する円筒形である。口唇部は平坦面となる。口縁部外面に突帯や穿孔をもつものがある。突帯については、外面に1周巡らすものはなく、部分的に横位に作り出す。文様・調整は、口唇部にいていねいなナデ、口縁部外面に貝殻刺突文を施す。胴部外面に貝殻腹縁による刺突文、貝殻条痕文を施す。内面はいていねいなナデ、もしくはミガキをおこなう。

442～451・453・454・456～460は、口縁部である。442・443は、同一個体と考えられる。貝殻腹縁による横位刺突連点文を施す。442は口縁部に穿孔をほぼ外側から施す。443は突帯が1条巡っている。444・445は、同一個体と考えられる。口縁部は内湾する。外面に連続する斜位貝殻刺突文を施し、羽状とする。444は口縁部に穿孔をほぼ外面から施す。446・447は、同一個体と考えられる。外面にススが付着している。口縁部外面に貝殻腹縁による横位刺突文を施す。447は突帯が1条巡る。胴部外面に3条の沈線からなる鋸歯状文を3段施す。一部に2条の沈線も見られる。448は、わずかに内湾する口縁部である。外面に3条の横位貝殻刺突文、胴部外面に浅い斜位貝殻刺突文を施す。口縁部に穿孔をほ

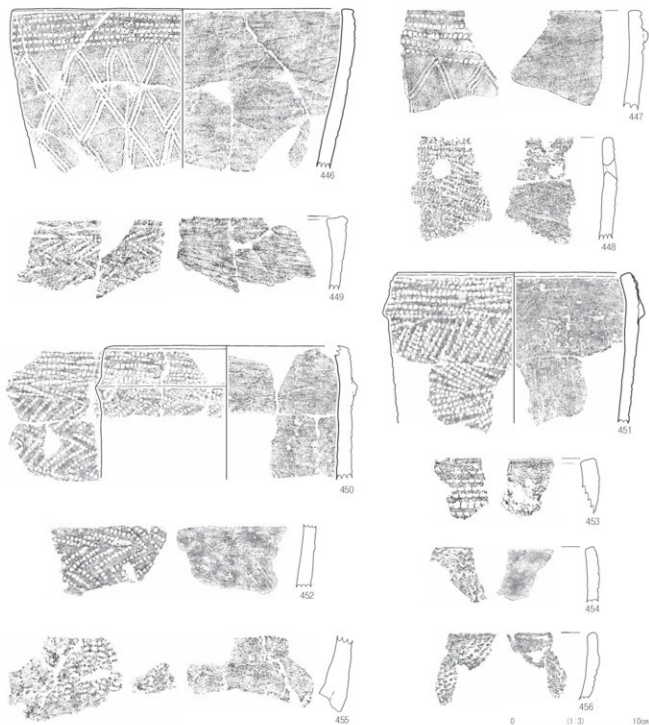


第303図 V類土器 (1)

は外面から施す。449は、口縁部が肥厚する。口縁部外面に貝殻腹縁による2条の横位刺突文を施す。胴部外面に斜位貝殻刺突文を施す。内面は、ていねいなナデをおこなう。450・452・455は、同一個体と考えられる。口縁部外面下部に貝殻腹縁による横位刺突文を施す。突帯が1条巡り、斜位貝殻刺突を施し、羽状となる。突帯下位の胴部外面は貝殻刺突文を斜位に交互に施す。451は口縁部から胴部である。口縁部から胴部にかけて、横位→

斜位→羽状の順で刺突文を施す。口縁部外面下位では、突帯を部分的に巡らせ、突帯にも横位刺突文を施す。453は刺突文を施す。454は口縁部外面に横位と縦位の刺突文を施す。内面はていねいなナデをおこなう。456は口縁部外面下位に突帯をもち、斜位貝殻刺突文を浅く施す。

457は外面に横位貝殻刺突文を施す。458は外面に横位や斜位の貝殻腹縁による刺突文を施す。459・460は

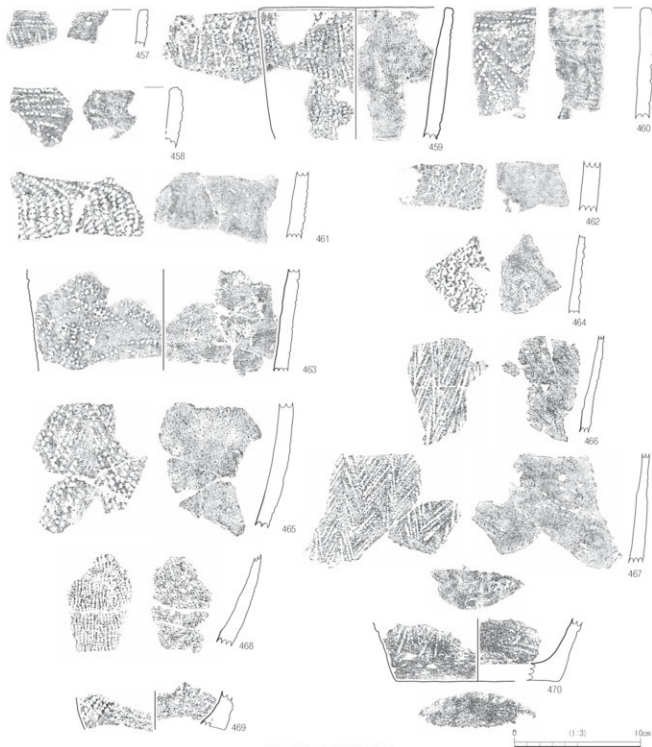


第304図 V類土器(2)

口縁部から胴部である。胴部外面に斜位貝殻刺突文を羽状に施す。

461～469・471・472は、胴部である。461は外面に斜位から縦位の貝殻刺突文を施す。462は、外面に貝殻腹縁による斜位刺突文を施す。463・465は、外面に貝殻刺突文を施す。464は外面に斜位貝殻刺突文を密に施す。468は外面に浅い縦位貝殻刺突文を密に施す。469

は、胴部最下部で底部が剥落したものである。外面に斜位貝殻刺突文を施す470は底部で466・467と同一個体と考えられる。内外面にススが附着する。466・467は、胴部外面に浅い斜位貝殻刺突文を鋸歯状に施す。470の胴部下部はナデをおこない文様をもたない。471は外面に浅い斜位貝殻刺突文を施す。472は内面に白色の附着物が見られる。外面は不規則な条痕の上に横位・斜位の



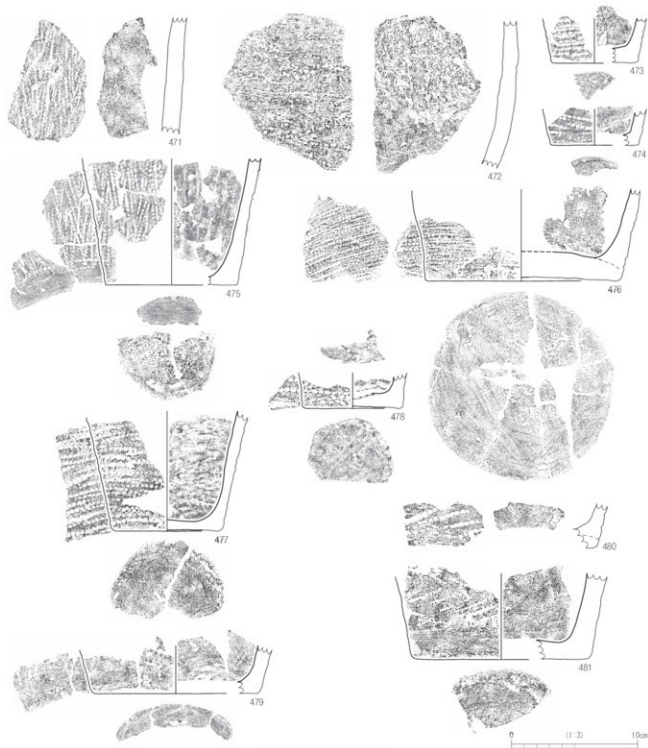
第305図 V類土器(3)

貝殻刺突文をまばらに施す。

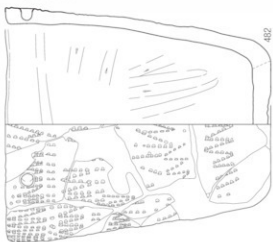
473～481は、胴部から底部である。473・474・476～478は、胴部下部に横位貝殻刺突文を施す。475は内面にススが附着する。胴部外面に浅い斜位貝殻刺突文を鋸歯状に施し、下部に横位貝殻刺突文を施す。胴部下部はナデをおこなうが、文様をもたない。479は胴部下部にナデをおこなうが、文様をもたない。480は胴部下部に

斜位貝殻刺突文を施す。481は底部外面端部にナデをおこない、その上位に浅い斜位貝殻刺突文を羽状に施す。

482は口縁部から底部である。外面に貝殻腹縁による斜位刺突文を鋸歯状に施す。刺突文を密に施す箇所と、まばらに施す箇所がある。口縁部外面に貫通していない穿孔痕がある。



第306図 V類土器(4)



第307図 V期土器(5)

Ⅵ類土器 (第308図483～第310図515)

器形は、底部から直線的もしくは、やや膨らみつつ立ち上がるバケツ形である。口縁部は内湾するものと直口のものがある。口唇部は平坦のものや、内傾するもの、丸みを帯びるものがある。

483～490は、口縁部または、口縁部から胴部である。そのうち483～485は口縁部が内湾する。483は、口縁部外面に6～7条を一単位とする横位条痕文を施す。胴部外面にも同じ施文具によって縦位条痕文を施す。484は、外面に横位貝殻条痕文を施す。485は、外面に刺突文を不規則に施す。口縁部に内外面から施された穿孔をもつ。

486は、外面に4～5条を一単位とした深い短沈線文を縦位・横位・斜位と不規則に施す。器壁が他と比較的薄い。487は、口縁部外面に短い貝殻腹縁による条痕文を横位・斜位に施す。488の口縁部は内湾し稜をもつ。口縁部付近にはススが付着する。外面に棒状工具による縦位・斜位の刺突文を施す。489は、口唇部がやや丸みを帯びつつ内傾し、内傾面の一部に横位の流水文を施す。外面に横位・斜位の流水文を施す。490は、口唇部がやや丸みを帯びつつ内傾し、口縁部外面上部に貝殻腹縁による横位条痕文、胴部に貝殻腹縁による条痕文を山形に施す。



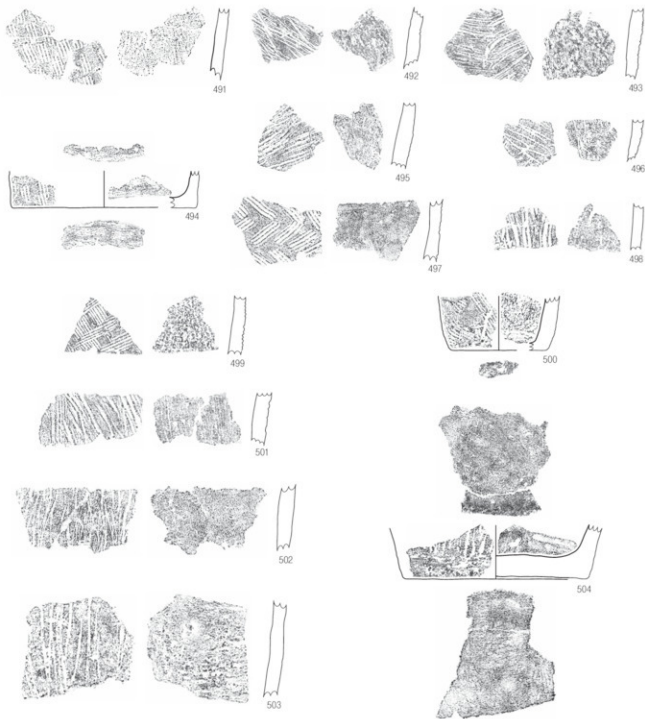
第308図 Ⅵ類土器 (1)

491・494は、同一個体と考えられる胴部と底部である。底部は平底で、外面に3～4条を一単位とする条痕文を施す。

492・493・495～499・501～503は、胴部である。492・493は、外面に斜位条痕文を施す。493は、不規則な条痕文に、一部深い沈線文を施す。492・493の文様は、幅・深さは一定ではないが、同一工具による施文と考え

られる。495・496は、外面に斜位条痕文を施す。499は外面に斜位条痕文を方向をたがえて、格子状に施す。497は外面に3条を一単位とした沈線文を羽状に施す。498・501～503は、外面に斜位条痕文を施す。

500・504は胴部から底部である。500は外面に斜位条痕文を施す。504は底部がわずかに上げ底となる。胴部外面下部にナデをおこない、上部に縦位貝殻刺突文を施す。



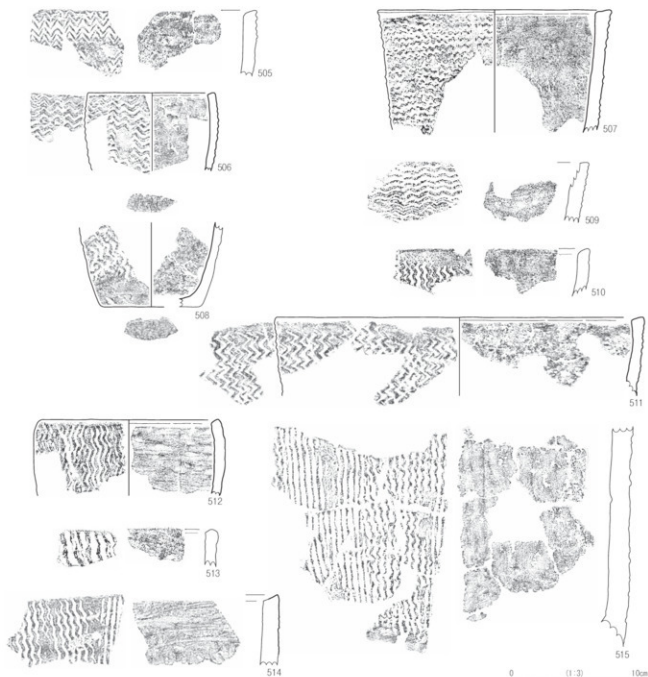
第309図 VI類土器(2)

505～515は、外面に押型文を施す一群である。505・506は、口縁部が内湾し横位に山形押型文を施す。505は、外面の一部を指おさえにより文様を消す。口唇部はていねいなナデをおこない内傾する。内面はナデをおこなう。508は胴部から底部で、506と同一個体と考えられる。506と508の内面はミガキのようなていねいなナデをおこない、一部光沢を帯びる。507・509は、口縁部が直行し横位に山形押型文を施す。507・509の口唇部は若干内傾する。507の口唇部は非常にていねいなナデをおこない光沢を帯びる。内面はナデをおこなう。胎

土に角閃石を含む。

510～512・514は、口縁部が内湾し山形押型文を縦位に施す。口唇部はていねいなナデをおこなう。510・511の内面はナデをおこなう。512・514の内面は、工具による調整をおこなった後ナデをおこなう。515は514と同一個体と考えられる。514と515は、外面に2種類の施文原体で山形押型文を縦位に施す。

513は直行し口唇部が丸みを帯びる口縁部である。口縁部外面はていねいなナデをおこなう。内面はやや荒いナデをおこなう。

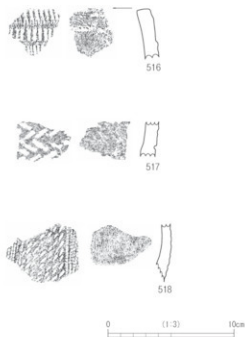


第310図 V類土器(3)

Ⅶ類土器 (第311図516～518)

外面は短沈線文を施し、内面はナデをおこなう一群である。

516は、口唇部を平坦に整形し、内湾する口縁部である。口縁部外面上位の沈線文は、下から上へ、中位は上から下、下位は下から上へと交互に施す。517は、胴部である。棒状工具による沈線文を斜位に施し、羽状とする。518は、内外面がミガキのようにナデ整形する胴部である。外面の左右に密に刺突文を施し、その間にケズリのような沈線文を施す。また、図の外面右が上になる可能性もある。

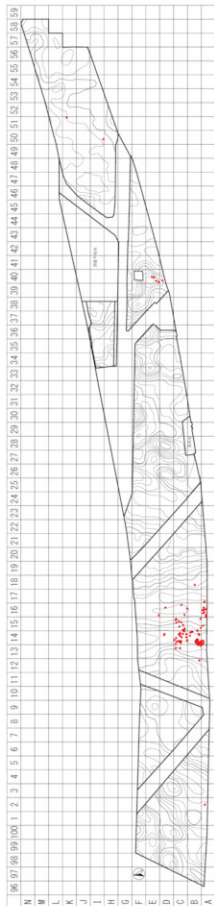


第311図 Ⅶ類土器

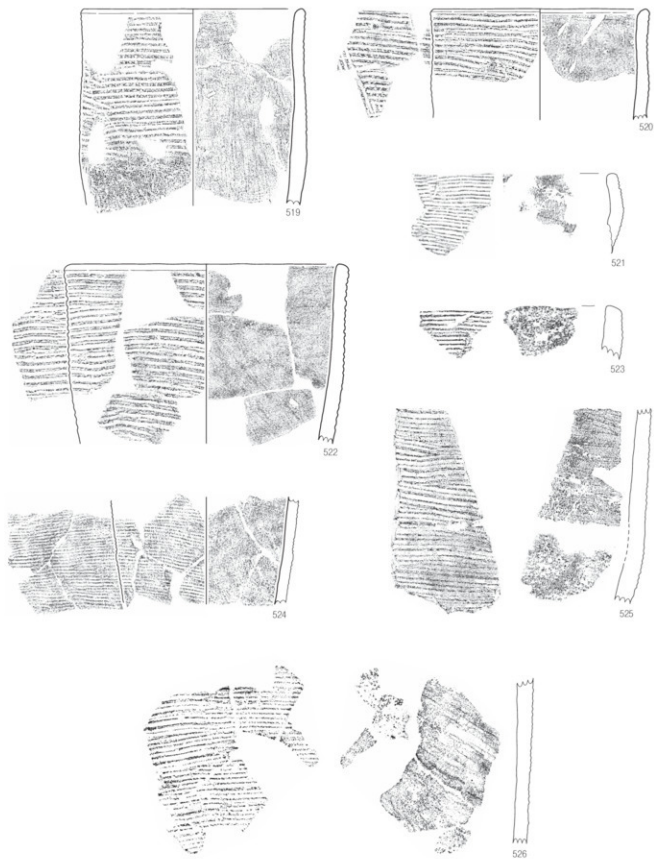
Ⅷ類土器 (第313図519～526)

口縁部外面から胴部外面に貝条痕文を横位に施し、器形は円筒形となる一群である。

519～522は、口縁部から胴部である。口縁部内面は横位に、胴部内面は縦位に工具ケズリをおこなう。519・520は同一個体と考えられる。胎土に角閃石を含む。胴部下位に文様をもたない。口唇部は、やや丸みを帯びる。520は、内面に赤褐色の付着物が見られる。522の口唇部は、平坦である。521・523は、口唇部がていねいにナデられた口縁部である。内面は剥落が著しい。521は内湾する。524～526は、胴部である。525・526の内面には剥落があるが、横位の工具ケズリをおこなう。523・525・526は、同一個体の可能性が高い。

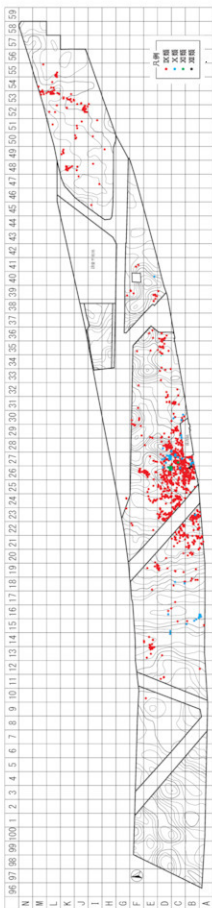


第312図 遺物分布図 (Ⅶ類土器)



0 (1:3) 10cm

第313图 VIII類土器



第314図 遺物分布図(Ⅹ・ⅩⅠ・ⅩⅡ類土器)

Ⅹ類(押型文)土器(第316図527～第329図631)

器面に押型文を施し、器形がⅧ類にあてはまらない土器群である。楕円文・連珠文(楕円文とも山形文ともいえないもの)・山形文・菱形文の4つの文様が見られる。調査区C～Fに分布している。出土したⅩ類土器は破片資料が多く、計測する位置で傾きや器形に多少の影響を及ぼすため、個々の土器片をその土器の全体的な傾向として判断した。

口縁部について

口縁部と接合したり、同一個体と判断したりした胴部・底部を含み、以下のような基準で細分した。

- ① 口縁部内面に明確な稜をもたないかもつか
 - a: 明確な稜をもたないもの
 - b: 明確な稜をもつもの
- ② 押型文の種類

楕: 楕円, 連: 連珠, 山: 山形, 菱: 菱形
結果, 次の8種類に細別ができた。

Ⅹ-a-楕類(第316図527～第317図541)

口縁部内面に明確な稜をもたず、口縁部外面に楕円押型文を施す一群である。

527は波状口縁で楕円押型文を横位に施す。口唇部や内面に文様をもたない。528は胴部で527と同一個体と考えられる。529は横位に楕円押型文を施す。内面にも外面と同一の楕円押型文を横位に施し、その上位に刺突文を施す。

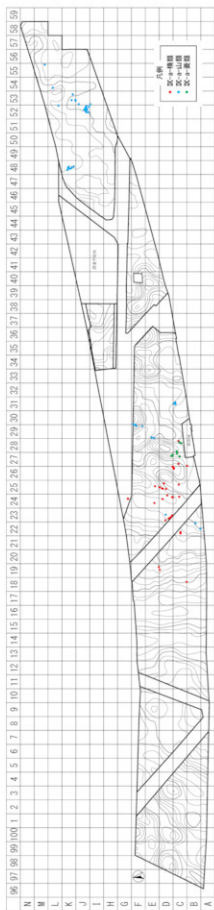
530・531は、口縁部外面上部が無文部となる。530の無文部下位は、楕円押型文を横位に施す。口縁部内面も外面と同一の楕円押型文を横位に、口唇部にはキザミを施す。531は無文部のみの確認だが、器形等から530と同じ分類とした。口唇部と口縁部内面に、同じ楕円押型文を横位に施す。

532は楕円押型文を斜位に施し、口唇部と口縁部内面にも外面と同一の楕円押型文を横位に施す。

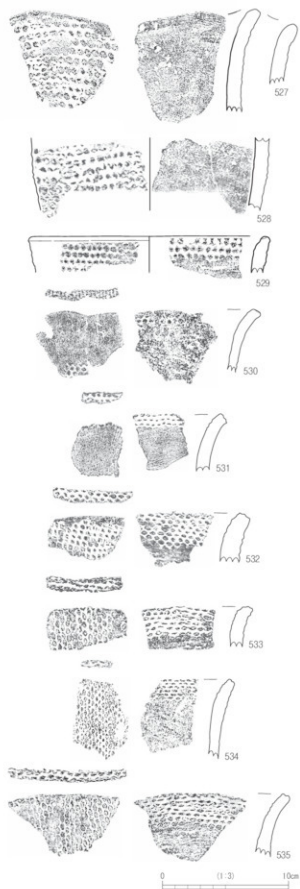
533～537・539の口縁部外面は、縦位に楕円押型文を施す。口唇部と口縁部内面にも外面と同一の楕円押型文を横位に施す。540は胴部から底部で、539と同一個体と考えられる。楕円押型文を横位に施すが、胴部下位は文様をもたない。538は口縁部外面の縦位の楕円押型文は、下位では横位の楕円押型文となる。口唇部にキザミを施す。541は538と同一個体と考えられ、楕円押型文を横位に施す。

Ⅹ-a-連類

口縁部内面に明確な稜をもたず、口縁部外面に連珠押型文を施す土器は、確認できなかった。



第315区 遺物分布図 (X-a-精類・X-a-山頂・X-a-壺類)



第316区 X-a-精類 (1)

K-a - 山類 (第317図542～第318図547・548)

口縁部内面に明確な稜をもたず、口縁部外面に山形押型文を施す一群である。

542～545の口縁部外面上部は、山形押型文を横位に施す。口縁部内面上部には横状文を、その下位に外面と同一の山形押型文を横位に施す。施文順は横位押型文→

横状文となる。543～545の外面は、横位の山形押型文の下位はやや斜位の山形押型文となる。

547は口縁部外面の縦位の山形押型文は、下位で横位の山形押型文となる。口縁部内面も外面と同一の山形押型文を横位に施す。548は547と同一個体と考えられる。

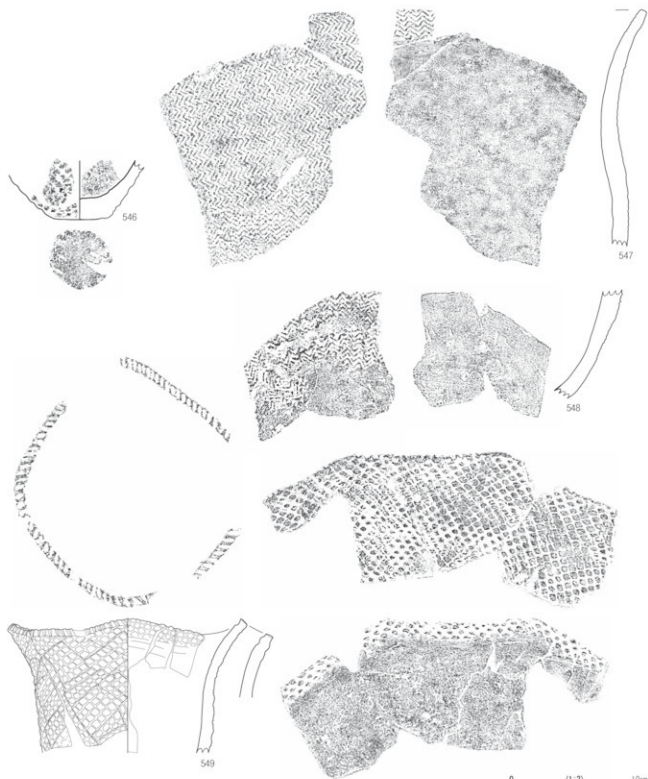


第317図 K-a-精類 (2)・K-a-山類 (1)

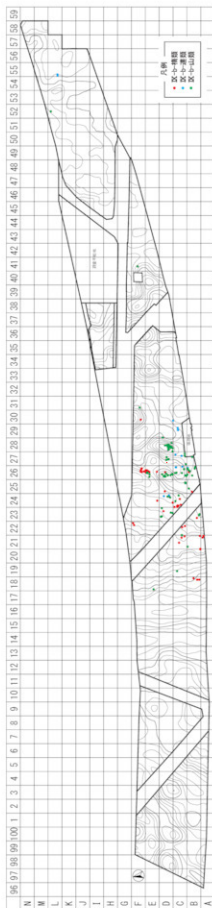
K-a-菱類 (第318図546・549)

口縁部内面に明確な稜をもたず、口縁部外面に菱形押型文を施す一群である。549は口縁部から胴部まで全周し接合した。波状口縁の口縁部外面上部から胴部まで斜位に菱形押型文を施す。口唇部には刺突状のキザミを施

す。口縁部内面は外面と同一の菱形押型文を横位に施した後、施文幅が一定となるようナデ消す。546は底部で、外面端部まで、菱形押型文を斜位に施す。549と同一個体と考えられる。



第318図 K-a-山類 (2)・K-a-菱類



第319図 遺物分布図 (X-b-精類・X-b-運類・X-b-山類)

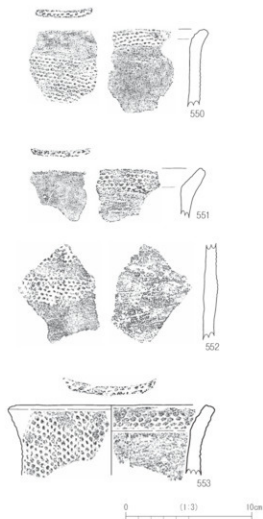
X-b-精類 (第320図550～第321図560)

口縁部内面に明確な稜をもち、口縁部外面に楕円押型文を施す一群である。

550・551は、口縁部外面上部が無文部となる。550は口唇部と口縁部内面も外面と同一の楕円押型文を横位に施す。551・552は、同一個体と考えられる。551は口唇部と口縁部内面に同じ楕円押型文を横位に施す。

553～556の口縁部外面は、楕円押型文を斜位に施す。553・554は、口唇部と口縁部内面にも外面と同一の楕円押型文を横位に施す。555は口縁部内面に外面と同一の楕円押型文を横位に施し、口唇部は斜位に刺突文を施す。556は口縁部外面に無文帯をもちながら楕円押型文を異方向(斜位)に施す。口縁部内面に外面と同一の楕円押型文を横位に施す。

557～559の口縁部外面は、楕円押型文を縦位に施す。口唇部と口縁部内面も外面と同一の楕円押型文を横位に施す。559は波状口縁である。560は胴部で、559と同一個体と考えられ、楕円押型文を横位に施す。



第320図 X-b-精類 (1)

X-b-連類 (第321図561～第322図565)

口縁部内面に明確な稜をもち、口縁部外面に連珠押型文を施す一群である。

561～563は、口縁部外面に連珠押型文を横位に施す。

561は口縁部内面上部に刺突状のキザミを施すのみである。562は口縁部内面に外面と同一の連珠押型文を横位に施し、その上位に刺突状のキザミを施す。口縁部外面上部の横位の連珠押型文は、下位で斜位の連珠押型文となる。563は口縁部内面に外面と同一の連珠押型文を

横位に施した後、口唇部に刺突状のキザミを施す。胴部下部は、連珠押型文を斜位に施す。

564は口縁部外面に連珠押型文を斜位に施す。口縁部内面に外面と同一の連珠押型文を横位に施した後、その上位にキザミを施す。やや波状口縁となる。

565は口縁部外面に連珠押型文を縦位に施す。口縁部内面に外面と同一の連珠押型文を横位に施した後、その上位に刺突文を施す。口唇部はていねいなナデをおこない平坦である。



第321図 X-b-精類(2)・X-b-連類(1)

X-b - 山類 (第322図566～第323図580)

口縁部内面に明確な稜をもち、口縁部外面に山形押型文を施す一群である。

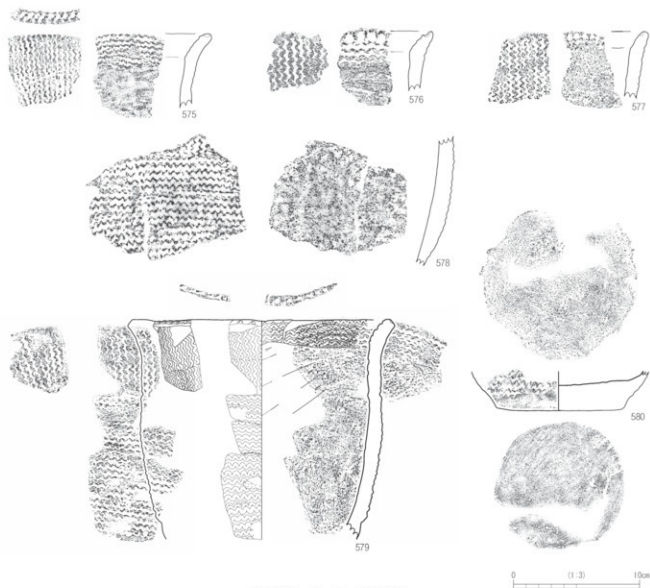
566～571・573は、口縁部外面に山形押型文を横位に施す。566～569は、口縁部内面に外面と同一の山形押型文を横位に施した後、その上位に刺突文を施す。566の口縁部外面での横位の山形押型文は、下位では縦位の山形押型文となる。570は口縁部内面に外面と同一の山形押型文を横位に施した後、その上位にキザミ状の刺突文を施す。571は口唇部から口縁部内面上部にかけて押圧状の6～8mm程度の太いキザミを施すのみである。572は口縁部外面に山形押型文を異方向(斜位)に施す。口縁部内面は外面と同一の山形押型文を横位に施すのみである。573はやや波状口縁で、口縁部内面に外面と同一の山形押型文を横位に施すのみである。

574は口縁部外面に無文帯をもちながら山形押型文を斜位に施す。口縁部内面に外面と同一の山形押型文を横位に施した後、その上位に2mm程度の刺突文を施す。わずかに波状口縁となる。

575～577・579は、口縁部外面に山形押型文を縦位に施す。575～577は、口縁部内面に外面と同一の山形押型文を横位に施した後、その上位に刺突文を施す。577・578・580は、同一個体と考えられる。578は外面上位は縦位の山形押型文だが、下位で横位の山形押型文となる。579は口縁部外面の縦位の山形押型文は、下位は横位の山形押型文となる。口唇部は刺突文を施す。580の底部外面は、ていねいなナデをおこない光沢を帯びる。



第322図 X-b-連類(2)・X-b-山類(1)



第323図 IX-b -山類(2)

IX-b -菱類

口縁部内面に明確な稜をもち、口縁部外面に菱形押型文を施す土器は、確認できなかった。

胴部・底部について

IX類の中で口縁部と接合しない、もしくは同一個体と判断できない押型文を施す胴部・底部はIX-cとし、以下のような基準で4つに細別した。

押型文の種類

楕：楕円、連：連珠、山：山形、菱：菱形

IX-c -楕類 (第325図581～第326図596)

外面に楕円押型文を施す一群である。

581は、口唇部に近い口縁部から胴部である。外面上位に無文部をもち、無文部下位では楕円押型文を横位に

施す。口唇部の施文の有無は不明だが、内面には、外面と同一の楕円押型文を横位に施す。その施文下位は、工具による調整をおこなう。582・583は、外面に楕円押型文を横位に施す。

584～586は、外面に楕円押型文を斜位に施す。587・588は、外面上位に縦位の楕円押型文を、下位に横位の楕円押型文を施す。587は口縁部近くの胴部で、外面上位で縦位の施文の一部をナデ消す。内面上位には外面と同一の楕円押型文を横位に施す。588は587と同一個体と考えられる。

589・590は、外面に楕円押型文を斜位と横位に施す。591は外面に楕円押型文を縦位と斜位に施す。592・593は、外面に楕円押型文を縦位に施す。

594は外面上位に横位、下位に斜位の楕円押型文を施す。596は底部近くで、594と同一個体と考えられる。